きょなん歴史散歩マップ③

里海・里山ハイキングコース

■■■■■ が勝山駅と保田駅を結ぶ、里海・里山ハイキングコースです。

お問い合せ

保田駅前観光案内所 ☎0470-55-1683
勝山駅前観光案内所 ☎0470-55-0115
「道の駅きょなん」案内所 ☎0470-55-4518
鋸南町商工会 ☎0470-55-3691
鋸南町歴史民俗資料館（菱川師宣記念館） ☎0470-55-4061

きょなん歴史散歩マップ③「里海・里山ハイキングコース」の見どころ

① 源頼朝上陸地 安房に逃れた源頼朝～天下取りへの再起の一歩～

上陸地

治承4年（1180年）伊豆で流人生活を送っていた源頼朝は、平家打倒をかかげ挙兵しましたが、石橋山の戦いで敗れ、海路安房に落ち延びました。 先着していた北条時政に出迎えられ、わずかな供で竜島に上陸した頼朝は、各地の豪族へ書状を書いたり、付近の神社などに戦勝祈願をしたりして過ごしました。上陸してからわずか14日間で房総の豪族たちを味方にし、一大勢力となり平家を滅ぼし、鎌倉幕府を開きます。頼朝にとって再起の一歩となった竜島は、その後日本の歴史にとっても重要なターニングポイントの地となったのです。

頼朝角なしサザエ伝説…竜島に上陸した時にサザエを踏んで怪我をしたので、怒って「竜島のサザエに角などなくなってしまえ」と怒鳴りました。それ以来、竜島のサザエには角がなくなったといわれています。

② みささぎ島伝説

みささぎ島

紀元111年景行天皇より東国平定の命を受け、子である日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が相模の国から上総の国へ船で渡るとき、海が突然荒れ、船が沈没寸前になりました。妃の弟橘姫（オトタチバナヒメ）は「海神の心をお鎮（しず）め申し上げましょう」と言い残して海に身を投げました。するとそれまでの嵐が嘘のように止みました。妃のなきがらは「みささぎ島」に漂着しました。「みささぎ」という言葉は天皇・皇后のお墓という意味です。

③ 浮島伝説 ～日本武尊（ヤマトタケルノミコト）・景行天皇・天皇の料理番誕生～

東国平定を成し遂げた日本武尊（ヤマトタケルノミコト）の死後、父の景行天皇は皇子と同じ旅路をたどり、弟橘姫の供養も兼ね、浮島に来ております。浮島がとても気に入った天皇は、しばらく滞在したと言われます。この時、天皇に同行していた磐鹿六雁命（イワカムツカリノミコト）が浜辺でとれた大きな蛤や、角で作った弓の先で釣り上げた堅魚（鰹）を料理して天皇に差し上げたところたいそう喜ばれ、以来、天皇家の料理番となりました。後に料理の神様としても祭られるようになりました。

④ 関東唯一の捕鯨史跡の里「初代醍醐新兵衛の墓所」

浮島

初代醍醐新兵衛の墓所

東京湾最大の島である浮島沖に、太平洋から鯨道（くじらみち）としての深い海溝（東京湾海底谷）が有ります。鋸南勝山はそこに回遊するツチクジラという鯨を捕って繁栄していた地です。

醍醐新兵衛は鯨組3組57隻500人に世襲制の権利を与え、明治初期まで日本では類を見ない220年間、驚異的な組織集団により捕鯨が行われていました。

⑤ 大黒山

平地に立つ「一つ山」で神がつかさどる山であり、信仰の山であります。

高さは75m頂上には城型の展望台が有り、360°の展望で、天気が良いときは南アルプスや大島が良く見えます。かつては鯨を捕るのに手旗信号で合図を送っていた場所でもあります。水戸黄門さまも勝山を訪れ、この大黒山に登ったと言われています。

⑥ 勝山城跡

戦国期の海城勝山城跡。里見水軍の基地として正木氏が城主でした。曲輪跡からの眺めは最高。

⑦ 天寧寺

臨済宗建長寺派　鎌倉北条氏の時代（1220年）二階堂氏により創建（中本山であった）。本尊 釈迦牟尼仏 千手観世音菩薩　安房国札7番。 山門の仁王は運慶作と伝えられています。仁王門の掲額は山岡鉄舟。柏槇（ビャクシン）は県指定天然記念物。

⑧ 牧場

この地房州は酪農王国として栄えた地です。八代将軍吉宗の時代、インド産の白牛三頭が輸入され、幕府管理の嶺岡牧場で飼育されました。白牛の乳から「酪」と呼ばれる乳製品が製造され、貴重な薬として高価で売買されました。その後嶺岡山系沿いに広がり酪農発祥の地として位置づけられています。

⑨ 佐久間（旧佐久間村）

佐久間の郷　奥行き約7.5㎞、戸数約400戸の農業地域。平均60アールほどの耕作地。
米・野菜・花木・酪農の複合経営（主力は菜花）昭和30年勝山と合併。中世以前は狭隈郷（さくまのごう）と書いていました。（谷間の意味）全国の佐久間氏の発祥地とされます。（三浦一族系）

⑩ 津辺山

山頂に、火の神＝秋葉神社、雨の神＝雨乞塚、風の神、明王の森、浅間の森等が有り各集落には産土神が残っており神社発展の経過を示しています。

⑪ 佐久間ダム2000本の桜

赤伏より4㎞奥に125万㌧の佐久間ダムが有ります。多目的ダムで周辺が整備されており、特に桜の名所で2月中旬から早咲きの頼朝桜が咲き始め、牡丹桜は4月20日頃まで楽しめます。
毎年桜まつりも開催されます。
（桜と水仙の名所 佐久間ダム）

⑫ 田子の古道

鴨川より嶺岡山系で尾根伝いに繋がっています。弥生時代からの古道で「山辺赤人」、「日蓮聖人」、「梁川星巌夫妻」もこの道を通ったと言われています。

⑬ 妙典台

1264年日蓮上人は父の墓参りに鎌倉から通過巡行の折ここにて説教し、ここに妙典寺を建立しました。
（現在は醍醐新兵衛により加知山神社となりへ移転）

⑭ 田子の台遺跡

富士山

縄文・弥生時代の石器類や竪穴式住居跡が発掘されています。
<田子の浦伝説>
「田子の浦ゆ　うち出でて見れば　真白にぞ　富士の高嶺に雪は降りける」
奈良時代の歌人「山辺赤人」が富士を詠んだ有名な歌です。赤人が田子台から詠んだ歌という説もあります。

⑮ 江月（旧江月村）

保田地区と佐久間地区に挟まれた山あい（谷間）の村で戸数23戸で水仙で生計をたてていた村でした。源頼朝はこの地を経由して佐久間、長狭へおもむきました。江月は田んぼが小さく、段々の田が多く、現在は稲作農家も少なくなりました。
氏神　鶴ヶ峰神社　祭神大山祇命　　創始不詳
地蔵堂　慶長前の創建。和尚が明治初期まで寺小屋の師匠をなし、明治6年から30年頃まで江月学校の校舎でした。

お堂（地蔵堂）

鶴ヶ峰神社

いぼ神様

炭焼き小屋

⑯ 出羽三山講碑

出羽三山（羽黒山・湯殿山・月山）を信仰する講仲間が建てた碑。山岳信仰を母胎として、死者の霊は山に宿る祖霊信仰。安房には供養碑・行人墓など640基を数えます。

⑰ 頼朝の隠れ里・馬かい場・⑱ 馬つなぎ石

隠れ里…頼朝が休むとき岩が掘れている場所に身を隠した。
馬かい場…馬を走らせた（かけっこ［方言］）場所。
馬つなぎ石…頼朝献上馬「池月」をつないだ、馬つなぎ石（片道500m）（看板あり）

⑲ 武台（源頼朝公「武士舞」を舞った場所）

名馬「池月」（いけづき）を献上されたのでお礼に武士舞を踊った場所（小字武台）。 献上した村人にその徳を賛え「馬賀」（まが）の姓を与えました。

⑳ 馬の住（まのすみ）（頼朝伝説　名馬池月の産地）

源頼朝は、石橋山の戦いで敗れ、海路この地に落ち延びました。
江月の「馬の住（まのすみ）」より名馬「池月」を献上されました。
そのお礼に頼朝は「馬賀」の姓をあたえました。
（小字　馬ノ住）この地は池月がなまり江月となりました。
他に鋸南町の頼朝伝説として、馬つなぎ石・ひづめ跡・玉の井・姥塚（槍投げ）・駒立屋敷・み山の椎「花が咲いて実はなるな」の伝説が有ります。

㉑ デーデッポの足跡

富士山に腰掛け東京湾で顔を洗ったと言われる巨人の足跡。江月部落の弁天様の田として青年達が耕作していた3アールほどの田。東京湾をひとまたぎにして房州に渡ってこの足跡を残し、さらに上総の方に越していきました。せき払いをしたら勝山の浮島が飛び出しました。（伝説の巨人）現在は道がなく、行けません。

㉒ 保田神社

天文4年（1535年）創始。祭神　日本武尊（ヤマトタケルノミコト）
大嵐の跡、海砂の中から一面の神鏡出る。"これ則ち日本武尊の御霊なり"と称し、桜の馬場と言われたこの地に社殿を建立して鎮めたと言います。
かつては御霊宮と言いました。

日本水仙

水仙

別名　雪中花。
漢名の「水仙」を音読みして「すいせん」になりました。
意味は「仙人は、天にあるを天仙、地にあるを地仙、水にあるを水仙」
きれいな花の姿と芳香がまるで「仙人」のようなところから命名されました。
越前、淡路と並ぶ日本の三大産地。毎年1000万本近い水仙が出荷されています。
鋸南の水仙の由来
保田大帷子にある建長寺派「秀東寺」の和尚が中国から持ち帰ってきたとされています。水仙のことを秀東寺花と称していました。その後、元名へ広がり、江戸時代は押送船で江戸の問屋に運ばれ「元名のはな」として売られていました。

夏目漱石・正岡子規と水仙

夏目漱石や正岡子規も水仙が大好きで、良く飾り、水仙図を描いたり、水仙を詠んだ句が多数あります。
夏目漱石は明治22年学生の時、房州に学友と遊びに来、その様子を親友の正岡子規に見せるために日記風に書いて送っています。
それをまとめて「木屑録」に書き上げました。保田には10日間海水浴や鋸南散策をして遊んでいます。文学的資質を作る転機となった場所であり、正岡子規も2年後に房州にやって来ています。漱石は房州を「仙境」と書いています。「仙境」とは［俗世間を離れた平和な世界］「桃源郷」とか「ユートピア」ということだそうです。